

2009年1月30日

CRT 植込み時の課題を解決し、手技の効率化を実現する 「アテイン アビリティリード」を米国に先駆け販売開始

日本メドトロニック株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:島田隆)は、心臓再同期療法(CRT:Cardiac Resynchronization Therapy)※1用のペースメーカーリード「アテイン アビリティ左心室用 OTW リード」(Attain Ability® OTW lead 4196)を、米国市場より早く2009年1月から販売を開始しました。

「アテイン アビリティリード」は、重症心不全※2の治療法として注目されているCRTに用いられる、両室ペーシング機能付植込み型除細動器(CRT-D)および両心室ペースメーカー(CRT-P)の左心室専用リードです。

CRT用リードは植込みにあたり、次のような課題がありました。

① リード進行困難

リードを、冠状静脈から左心室側の最も適切な血管枝まで進ませるのが難しいこと。

② 横隔神経の刺激

横隔神経の近くに留置されるため、左室ペーシングをする際に神経を刺激し、横隔膜の収縮を生じさせてしまう可能性があること。

「アテイン アビリティリード」は、先端部のデザイン、新素材の採用など構造を変更することで操作性を向上させ、スムーズなリード進行を可能にしました。

また「デュアル電極システム」の採用により、異なる位置にある電極を選択できるため、横隔神経への刺激から生じる横隔膜の不快感な収縮を回避することが期待できます。これまではリードの位置を物理的に変えることなどでリスクを回避してきましたが、このシステムの採用で手術時間を短縮し、植え込みの成功率を上げることに貢献します。

さらに植込み後であってもこのシステムによりペーシング電極を変更することも可能となり、左心室のペーシング閾値※3の最適化を行うことで、患者さんの負担軽減にも役立ちます。

<「アテイン アビリティリード」(Attain Ability® OTW lead 4196)の製品特徴>

①デュアル電極システム

21mm離れた2つの電極により、横隔神経刺激を回避し、閾値の優れたペーシング部位の選択が可能。

②優れた操作性

- ・テーパーされた先端デザインで、これまで留置困難であった細い血管枝にも対応。
- ・柔軟なリード先端部分により、屈曲した血管枝へのデリバリーが可能。
- ・薄くても絶縁性能が高く、強度がある NASA(アメリカ航空宇宙局)開発の新素材(SI ポリイミド)により、デュアル電極でありながら 4Fr のリードボディ径を実現。

③留置したリードをしっかりと固定

デュアルカーブデザインでリードを留置位置にしっかりと固定できる。

※1 【心臓再同期療法 (CRT: Cardiac Resynchronization Therapy)】

心室同期不全に陥った心臓の左右の心室に、ほぼ同時に電気刺激を与えて収縮の同期性を高め、血行動態を改善する治療法。重症心不全※2 の患者さんを対象とした新しい治療法。

※2 【重症心不全】

心不全症状が NYHA(ニューヨーク心臓協会)の定めたクラス分類の III もしくは IV で、且つ、薬物治療によっても症状の改善が得られず、心電図上 QRS 幅が 130ms 以上で、左心室駆出率 35%以下の左室収縮機能障害を示す場合は、心臓再同期療法の対象となる。

※3 【ペーシング閾値】

心筋を興奮させることができる電流の強さの最小値のこと。



日本メトロニック (Medtronic Japan Co., Ltd.) について

メトロニックが提供する先端医療技術は心臓疾患を始め、パーキンソン病、糖尿病、脊椎疾患、脳疾患、慢性的な痛みなど慢性疾患を広くカバーしています。1975年に設立され、30年以上の歴史を持つ日本メトロニックは、慢性疾患に苦しむ人々に安らぎ、喜び、希望が届くよう、これからも日本に根差した事業活動を行ってまいります。

ウェブサイト <http://www.medtronic.co.jp>